

地域医療連携 ニュース



井上院長補佐（写真下段左から3人目）と腎臓内科スタッフ

Contents

ご挨拶 (P.2)

院長補佐のご挨拶

病院診療部の紹介 (P.2)

診療科のご紹介 (P.3)

泌尿器科／眼科

医師のご紹介 (P.4-5)

形成外科／呼吸器内科

教授のご紹介 (P.5-7)

内分泌内科・糖尿病内科/放射線科/
消化器内科・肝臓内科/ゲノム医療科/
呼吸器内科

看護部から (P.8)

クリティカルケア認定看護師の活動紹介

カルナ検査予約について (P.8)

提携医療機関から (P.9)

細谷医院

医療機関の方へ (P.9)

提携医療機関・登録医制度及
びインターネット予約（カル
ナ予約）について

ご挨拶

院長補佐 井上 勉



新緑がまぶしい季節となりました。日頃の医療連携に御礼申し上げます。当科は本院の腎臓内科・血液浄化部と、国際医療センター血液浄化部の診療を担当しております。腎炎・ネフローゼ症候群が減少している一方、高齢化を背景に腎硬化症の重要性が増しています。腎硬化症は腎生検が不要で、レニン・アンギオテンシン系阻害薬など従来の腎保護薬の効果は限定的です。生活習慣病としての側面が大きく、慢性腎臓病診療における総合・一般内科の先生方の存在感が増しています。我々は第二の主治医として、大学病院の強みである医療・人的資源を活用し、疾患の初期診断や多職種連携による情報提供を担ってまいります。併せて、急性腎障害や難病・稀少疾患の診療について、地域の患者さんと先生方のお役に立てるよう、さらに努めてまいります。今後ともご指導下さい。

病院診療部の紹介

診療部長 中里 良彦 外来☎：049-276-1829

病院診療部は、2022年10月に外来を開設しました。当初は紹介状を持たずに直接受診された内科系の患者さんの診療を中心に行っていました。開設から2年半が過ぎ、診療体制も充実してきました。2025年4月からは研修医も受け入れ、指導医とともに診療を行っています。診療部長は中里良彦（脳神経内科兼担）、副診療部長は樽本憲人（感染症科兼担）ですが、多くの内科医が兼担として病院診療部の診療に関わっています。実際の診療は各内科の専門医、専攻医を中心に行い、その上で専門的診療が必要な場合には、速やかに指導医が適切

な診療科で診療が受けられるようにマネジメントいたします。さらに、入院が必要な場合には専門科に紹介し入院していただきます。毎日、昼に行われるブリーフィングでは、内科、外科の教授、准教授も参加し、午前中に受診した患者さんの診療についての振り返りも行っています。複数の疾患を持つ患者さんやどの診療科に紹介したらいいのか判断に迷われるケース、健診での異常所見の相談など、大学病院の窓口として、今後は積極的にお引き受けいたします。どうぞ病院診療部宛にご紹介ください。



ブリーフィング風景（研修医、専攻医のプレゼンに各科の教授たちが優しくコメント、相談しています。）

診療科のご紹介

泌尿器科 診療部長 篠島 利明 (シノジマトシアキ) 外来☎：049-276-1290

当科では、良性疾患を中心に泌尿器科全般の診療を行っています。腎・尿管結石に対しては、体外衝撃波破碎術、硬性尿管鏡による圧縮空気破碎、尿管ファイバースコープを用いたレーザー破碎、経皮的腎盂内視鏡下での超音波破碎など、多様な治療法を実施しています。併存疾患のある患者さんにも、安全性を重視した術式を選択しています。また、排尿に関するお悩みにも幅広く対応しています。畜尿障害（頻尿・尿失禁）には薬物療法を基本とし、難治性の場合にはボツリヌス毒素膀胱壁注入療法や仙骨神経刺激療法を行います。腹圧性尿失禁には、

女性には尿道スリング手術、男性には人工尿道括約筋手術を提供しています。さらに、間質性膀胱炎には水圧拡張術やDMSO膀胱内注入療法も対応可能です。排尿に関連するお困りが強い患者さんがいらっしゃいましたら是非ご相談下さい。



診療部長からのメッセージ 診療部長：篠島 利明

当科は、尿路結石、排尿障害、尿路感染症など、日常診療で頻繁に遭遇する疾患に対して、質の高い医療を提供します。泌尿器がんに対する手術・薬物療法にも対応しておりますので、よろしくお願いいたします。

眼科 診療部長 篠田 啓 (シノダ ケイ)

外来☎：049-276-1295

埼玉医大アイセンターのスタッフは外来も入院も眼科に特化しています。眼科専用の手術室があり、年間およそ4000件の手術を行っています。角結膜疾患、まぶたや涙の疾患、白内障、緑内障、網膜疾患、神経疾患、お子さんの眼疾患と、



ロービジョン外来

いろいろな眼の病気に対応しています。また、2019年にはロービジョン外来を開設し、現在は第1、2木曜日と第4火曜日に行っています。

ロービジョン（Low Vision）とは、何らかの原因により視覚に障害を受け「見えにくい」「まぶしい」「見える範囲が狭くて歩きにくい」など日常生活で不自由を生じている状態を指します。それに対して行う、医療的、教育的、職業的、社会的、福祉的、心理的等すべての支援をロービジョンケアといいます。専門研修を修了したスタッフは15名おり、医師、看護師、視能訓練士、歩行訓練士や、時にケースワーカーといった多職種チームで幅広いニーズに対応しています。興味のある方はホームページ (https://saitama-med-eye.jp/low_vision/) を覗いてみてください。

診療部長からのメッセージ 診療部長：篠田 啓

ロービジョン外来では開設5年で延べ約300名の方に視覚補助具の選定、福祉制度の活用などのケアを行ってきました。専門視能訓練士の指導のもと種々の研修会や勉強会に積極的に参加し、外来・入院治療・退院後と一連のケアの提供に取り組んでいます。

形成外科 准教授 佐藤 智也 (サウトモヤ)

形成外科は身体の組織に起きた異常や変形、欠損などを機能と形態の両面から改善することを目指す外科分野です。皮膚や軟部組



織の外傷、熱傷、先天異常、顔面骨の骨折、皮膚腫瘍、瘢痕・ケロイドといった、体の表面に関わる様々な疾患や外傷の治療を行っています。

当科が特に注力しているのは褥瘡や糖尿病性足病変をはじめとする難治性創傷の治療分野で、全国でもトップクラスの症例数を取り扱っています。閉塞性動脈硬化症を併発している患者さんには、院内の血管外科や地域の循環器内科の先生方と協力して治療を進めています。下肢の温存だけでなく、機能的な側面を重視した治療アプローチを採用し、さらに装具療法も取り入れて再発防止に力を入れています。これからも地域住民の皆様の健康に貢献できるよう努めて参ります。

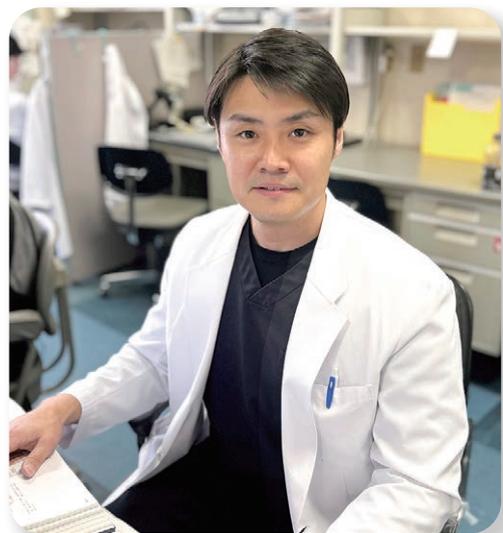
形成外科 外来医長 助教 佐藤 弘樹 (サウヒロキ)

近隣地域の医療機関の皆様、日頃より病診連携にご協力くださり有難うございます。

当院の形成外科では足潰瘍や褥瘡などの難治性創傷を主体に、小児の先天疾患や、顔面骨骨折、外鼻形成などの顎顔面外科といった幅広い範囲で診療を提供しています。

なかでも自分は、重症下肢虚血による足潰瘍や糖尿病性足潰瘍といった歩行機能にかかわる創傷に力をいれております。特に重症下肢虚血では大切断となる症例がおおく、下肢救済（なるべく足を長く残す）のためには血管外科や循環器内科と密に連携し、血行再建と創部治療を行う必要があります。また装具士とともに装具外来を行うことで、足をとりまくトラブルに対してトータルサポート出来るように努めています。こういった症例でお

困りの方がいらっしゃいましたら是非ご相談いただければ幸いです。





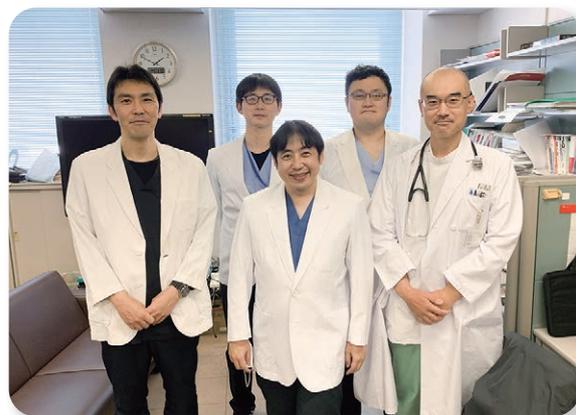
呼吸器内科 准教授 長井 良昭 (ナガイ ヨシアキ)

埼玉医科大学病院呼吸器内科では、アレルギー、間質性肺炎、COPD、感染症、肺癌など幅広い疾患に対応しています。特に肺癌は生涯で男性の約10%、女性の約5%が発症し、がんの中でも最も命に関わる病気のひとつです。当院では、最新の治療と臨床研究を活用し、最適な診療を提供することをめざしています。

肺癌診療では他施設共同の臨床研究に積極的に参加し、埼玉医科大学国際医療センターと協力して腫瘍免疫に関する基礎研究も行っています。手術が必要な場合は、国際医療センターへ紹介し、専門的な治療を受けられる体制を整えています。

また、合併症を持つ患者さんを中心に診療

し、国際医療センターと合同カンファレンスを実施、地域の医療機関とも連携し、より良い医療提供に努めています。診療やご紹介のご相談があれば、お気軽にご連絡ください。



教授のご紹介

内分泌内科・糖尿病内科 教授 及川 洋一 (オйкаワ ヨウイチ)

令和7年1月1日付で埼玉医科大学病院内分泌内科・糖尿病内科教授を拝命いたしました。当科では高血圧、糖尿病、脂質異常症に代表される代謝性疾患と、下垂体・甲状腺／



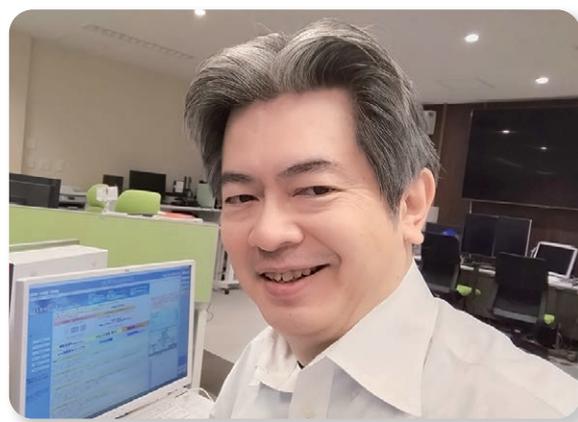
副甲状腺・副腎などの内分泌疾患の診療を行っています。代謝性疾患については、標準的な治療に加えて抗体医薬や先進医療機器（持続糖モニターやインスリンポンプなど）も積極的に活用し、安心・安全かつ質の高い診療を心掛けています。また内分泌疾患については、各種内分泌負荷試験に加えて甲状腺穿刺吸引細胞診や副腎静脈サンプリングも行っており、あらゆる内分泌疾患の診療に幅広く対応しております。これからも地域医療に携わっていらっしゃる皆様と密に連携しながらチーム医療を実践し、地域の皆様が安心してかかれる診療科を目指して努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

教授のご紹介

放射線科 教授 井上 快児 (イノウエ カイジ)

2025年4月1日付で埼玉医科大学の放射線科教授を拝命いたしました。私は埼玉医科大学病院で生まれており、幼少の頃には急性虫垂炎の手術も同病院で受けております。埼玉医科大学病院に勤務するようになってからも、様々な科の先生方からご指導を受け今日に至っており感謝に堪えません。研究分野としては人工知能(AI)の発達もあり、最近は深層学習を用いた病変の検出や悪性腫瘍の鑑別を行っています。地域医療連携としては、あらかじめ登録されている提携医療機関様に限られてしまいますが、インターネット予約(カルナ予約)にて、大学病院のCT検査、MRI検査、核医学検査を利用できるように

なっております。専門の診断医による画像診断結果報告書が翌日には閲覧できるようになっており、近隣の医療機関の皆様のお力になればと思っております。

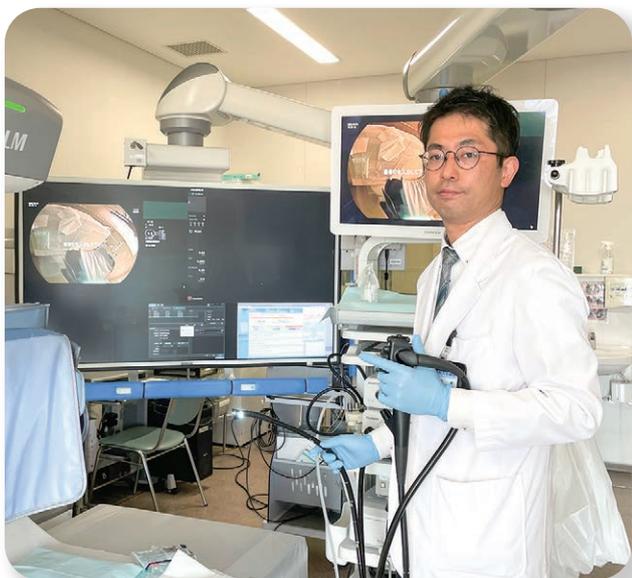


消化器内科・肝臓内科 教授 水野 卓 (ミズノ スグル)

近隣地域の医療機関の皆様、平素より大変お世話になっております。このたび、消化器内科・肝臓内科教授および診療部長を拝命い

たしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

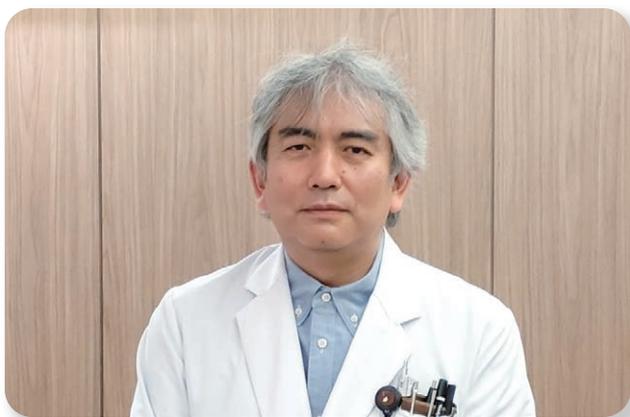
当科は肝疾患診療連携拠点病院として、多くの肝疾患の患者さんをご紹介いただいています。私自身は、胆石や胆管炎、膵炎などの胆膵疾患の診療に注力してまいりました。とくに胆管結石の治療においては、巨大結石や胃手術後の患者さんなど、治療の難しい症例にも積極的に対応しています。内視鏡センターではX線透視装置を最新機種に更新し、より高度かつ安全な治療を実施できる体制を整えています。当科は消化器一般外科、消化管内科と連携し、消化器疾患全般に対応しております。お困りの患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。





ゲノム医療科 教授 沼倉 周彦 (ヌマクラ チカヒコ)

近隣地域の医療機関の皆さま、平素より大変お世話になっております。この度、2025年4月1日付で埼玉医科大学病院ゲノム医療科の教授を拝命いたしました。



ゲノム医療科では、遺伝カウンセリングに加えて、産婦人科領域、小児科領域、成人領域の遺伝性疾患の診療に力を入れております。具体的には、重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前診断（PGT-M）、非侵襲性出生前診断（NIPT）、染色体異常症・単一遺伝性疾患の診療、発症前診断などを行っております。私の専門である、小児内分泌疾患、先天代謝異常症の診療も行っております。

地域の皆さまと連携し、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供できるよう、また、お気軽にご相談いただける様な体制を整えるよう尽力してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

呼吸器内科 教授 鎌田 浩史 (カマタ ヒロフミ)

2025年4月1日付で埼玉医科大学病院 呼吸器内科の教授を拝命しました。皆様のお役に立てますよう精一杯努めて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。当院の呼吸器内科は喘息をはじめとするアレルギー疾患、呼吸器感染症、間質性肺炎、腫瘍など幅広い疾患の診療を行っております。科の医師、メディカルスタッフ皆がこれらの疾患で当院を受診される患者様に、オールラウンドに、心のこもった治療をご提供できるように日々専心しております。

呼吸器内科は慢性的な疾患が多く、遠方にお住いであったり、ご高齢の患者様も多くいらっしゃると思われまますので、より一層地域の医療機関の先生方と連携させて頂き、患者様により負担が少なく、質の高い医療をご提

供できればと思っております。ご指導ご鞭撻を賜れますと幸いです。



クリティカルケア認定看護師は、2020年に救急看護・集中ケア分野が統合した新たな認定分野です。超高齢社会において、ICUの入室期間を「点」ではなく、急性期から地域まで、シームレスな視野を持った看護が求められています。

第一の課題に、集中治療後症候群(Post Intensive Care Syndrome: PICS)があります。ICU入室中あるいは退室後に生じる身体機能、認知機能、精神障害の総称であり、退院後の健康寿命にも大きく影響します。医療の進歩により、集中治療領域での治療成績が伸びた今、患者さんを救命するた

けではなく、その後のQOLが重要視されています。ICUでは、全身状態の安定化、合併症予防、早期回復に向けて、多職種と連携を図りながら“その人らしさ”を大切にした看護を実践しております。



ICU多職種カンファレンス風景

第二の課題は“予期せぬ心停止の防止”です。多数の慢性疾患を抱え、侵襲に極めて脆弱な患者さんに対して、病状の変化を早期に捉え、重症化を防ぐ事は重要な課題です。現在、院内迅速対応チームの運営に携わり、活動の一環としてICU退室後の患者さんに病状の悪化の徴候がないか、定期的に訪床しています。病棟・診療科・職種を超えた課題に対し、自施設に合うより良い教育・システム構築を目指しています。

クリティカルケア認定看護師 立花奈緒美



院内迅速対応チーム (RRT)

カルナ検査予約について



現在、提携医療機関（登録医）の先生方からインターネット診療予約（カルナ診療予約）に加え、検査予約（カルナ検査予約）としてCT、MRI、超音波検査の予約をお引き受けし

ています。今後は、より丁寧でご満足いただける診療を提供させていただきたく、CT、MRIで造影検査が必要な場合には、各専門担当科のカルナ診療予約にご予約ください。診療のうえ、さらに必要な検査がありましたら追加検査を行った上で報告書をお返ししたいと思います。また、単純のCT、MRI検査、超音波検査のみの場合は従来どおり、カルナ検査予約で予約ください。ただし、業務簡略

化のため先生方の情報提供書をもって技師が検査依頼を代行いたしますので、必ず①病名（検査に一致した疑い病名）、②目的（何を検査すべきかを簡潔に）、③検査部位についての記載をお願いいたします。



提携医療機関から

医療法人悠仁徳会 細谷医院 入間市

● 院内ウイルスフリーの診療所を目指して

貴大学病院には、いつも大変お世話になっております。忙しい時にインターネット（カルナsystem）で、たちどころに希望の日時に予約が出来るので患者様に大変喜ばれています。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

ところで、1990年代後半より鳥インフルエンザウイルスのヒトへの初めての感染が報告され、次いでSARS、新型インフルエンザ、MERSと立て続けに新興感染症が発生しました。そのため私は100年前のパンデミックの襲来に近いのではとの予感がし、表面抗原が変化し易いウイルスを防御するには、ワクチンでは後追いになるので、ウイルスそのものを吸着する方法を探しておりました。そんな折、空調機に電子フィルターを組み込んで、建物全体でウイルスや、花粉アレルゲン等の微細なもの迄吸着するという画期的な仕組みを導入している建設会社を見つけました。そして、新型コロナウイルスが流行する半年前、2019年6月に新診療所が完成しました。原理はエアドックと同じで、高圧の電圧でウイルスをプラスに荷電し、陰極板で吸着するというものです。この設備を導入したお陰で院内感染が発生せず安心して診療ができています。



副院長 院長



Honeywell社の電子フィルター

院長：細谷 雄治

医療 機 関 情 報	診療科目	内科、外科、消化器科、糖尿病内科
	診療時間	午前 9:00 ~ 12:00 午後 15:30 ~ 18:00
	休診日	土曜午後、日曜祭日

● 提携医療機関・登録医制度及びインターネット予約（カルナ予約）について

提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大学病院と地域の医療機関とで、患者さんに一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ります。

インターネット予約（カルナ予約）

インターネット（カルナ予約）にて、CT検査、MRI検査、アイソトープ検査、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査及び診療科（一部除く）の予約が取得できます。患者情報（診療情報提供含む）を入力していただくことで、受診日の予約ができます。紹介患者さんは受診日に初診受付に寄らずに、^{*1}直接診療科又は検査受付にてお待ちいただけます。^{*2}なお、提携医療機関（登録医）に申し込まれた医療機関のみがシステムの利用条件になります。

【詳しくは 当院ホームページ「医療機関の方へ」

➡「地域医療機関との病診連携システム」➡「お申し込み方法」をご覧ください。】

※1 カルナ予約の際CD-Rを別添付された場合は、先に初診受付へ寄っていただくようご案内下さい。

※2 マイナ保険証をお持ちの方は、診察前（又は受付前）にカードリーダーを利用いただくようご案内下さい。

埼玉医科大学 建学の理念

- 第1 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

●埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

●病院の基本方針

- 1. すべての病める人々にまごころを
もって臨みます。
- 2. 安心で質の高い医療を実践します。
- 3. まわりの医療機関と協力し合います。
- 4. 高い技能を持つ心豊かな人材を
育成します。
- 5. より幸せとなる医療を求めた
研究を推進します。

●患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。
これらを尊重した医療を行うことをめざします。

- ① ひとりひとりが大切にされる権利
- ② 安心で質の高い医療を受ける権利
- ③ ご自分の希望を述べる権利
- ④ 納得できるまで説明を聞く権利
- ⑤ 医療内容をご自分で決める権利
- ⑥ プライバシーが守られる権利

●小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。
これらを尊重した医療を行うことをめざします。

- ① こどもが最善の治療を受けて
生きる権利
- ② こどもが暴力から守られる権利
- ③ こどもが能力を十分に伸ばせる
ような医療を受ける権利
- ④ こどもが自分の診療について
自由に意見を述べる権利

☎ 連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター	: 049-276-1199	医療福祉相談室（退院調整）	: 049-276-2119
地域医療連携室	: 049-276-1876	入退院・患者支援室	: 049-276-1484
予約センター(外来初診予約)	: 049-276-1179	セカンドオピニオン受付	: 049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース（23号）

発 行：埼玉医科大学病院
 発行責任者：篠塚 望
 編 集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
 編集責任者：樽本 憲人・中里 良彦
 電 話：049-276-1876 地域医療連携室
 住 所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
 発 行 日：2025年 5月 1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。